

平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成29年1月30日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕
 問合せ先責任者(役職名) 財務部長 (氏名) 三上 武善 (TEL) 03-3433-3311
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	48,521	△3.4	1,788	7.9	1,978	2.5	1,238	△4.0
28年3月期第3四半期	50,236	17.3	1,657	29.0	1,929	15.0	1,290	31.3

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 1,167百万円(17.4%) 28年3月期第3四半期 993百万円(△21.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	55.72	—
28年3月期第3四半期	57.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	51,813	36,477	68.9
28年3月期	48,447	35,709	72.0

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 35,707百万円 28年3月期 34,862百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	8.00	—	9.00	17.00
29年3月期	—	9.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,000	0.1	1,800	70.8	1,900	38.3	1,200	59.6	53.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料の4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	22,689,000株	28年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	457,989株	28年3月期	457,945株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	22,231,045株	28年3月期3Q	22,531,055株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日までの9ヶ月間）におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和政策の継続により緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国をはじめとするアジア新興国や資源国経済の減速、英国のEU離脱問題に伴う世界経済の不確実性の高まりや、米国大統領選挙以降の急激な円安、株高の進行など、景気の先行きについては不透明な状況が続きました。

コーヒー業界におきましては、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場は、世界最大の生産国であるブラジル生産地の天候不順による生産量減少懸念などにより価格が上昇しており、また、為替相場も円安基調が続いていることから、予断を許さない状況にあります。

このような状況の下、当社グループはコーヒーの持つ魅力を生活者にお届けし続けるという企業使命を果たすため、「品質第一主義」の経営理念に基づいて、「ブランド強化」、「収益力の強化」及び「グループ連携強化」を3つの柱とし、新たな事業領域の開拓、生活者のニーズにお応えする新商品の開発やお取引先との絆を深める企画提案型の営業活動を継続して行いました。

また、コーヒーの育成とコーヒー生産者を支援する世界的な非営利の研究機関「World Coffee Research」（本拠地：米国 テキサス州）の日本初のゴールドメンバーとして、同団体が取り組む高品質なコーヒーの安定供給、生産者の経済的、社会的な生活向上と未来に向けたコーヒー産業の発展などを目的とした「国際品種栽培試験」活動への協力を開始いたしました。

業績につきましては、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、485億21百万円(前年同期比3.4%減)、営業利益は17億88百万円(同7.9%増)、経常利益は19億78百万円(同2.5%増)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億38百万円(同4.0%減)となりました。

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

(コーヒー関連事業)

業務用市場では、「トアルコ トラジャ コーヒー」や「氷温熟成珈琲」、世界各地の選りすぐりのコーヒー農園で生産されたスペシャルティコーヒーなど、差別性のある付加価値の高い商品の拡販活動を推進しました。また、お取引先への支援策として、夏季に「プレミアム ワールドカーレフェア」、秋冬季に「こだわりシチューフェア」を実施するとともに、新商品としては、シクランジュシリーズに「彩り豊かなフルーツケーキ」や「パンケーキ」などを発売しました。11月には第4回「KEY COFFEE SHOW」を東京で開催し、当社の「コーヒーの探求」への具体的取り組みや、お取引先への提案・支援活動を紹介しました。

家庭用市場では、春夏新商品として「プライムオリジンズ」シリーズのLP（ライブパック）豆製品、簡単にエスプレッソタイプのコーヒーが作れる「PUSH PRESSO（押すプレス）」などを発売、秋冬新商品としては、すべての原料産地を明記した香り高く深みのある味わいの逸品「BLUE MEISTER（ブルーマイスター）」、微粉碎したレギュラーコーヒーを包みこんだインスタントコーヒー「ル・グラン」などを発売しました。主力の「グランドテイスト」シリーズ及び簡易抽出コーヒー「ドリップオン」シリーズは、配荷拠点の拡大と効率的な販促活動が奏効し、両シリーズとも前年を上回る実績となりました。

ギフト商品では、中元期に素材や味わいにこだわった「氷温熟成珈琲アイスコーヒーギフト」など人気の飲料ギフトを中心に全35アイテムをラインアップ、歳暮期には2016年モンドセレクションにおいて金賞を受賞した新デザインの「ドリップオンギフト」や「インスタントコーヒー スティックバラエティギフト」など、多様な飲用シーンに合わせて全26アイテムをラインアップしました。

お取引先へのカフェ開業支援として取り組んでおります、さまざまな立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFE」は8店舗出店し、導入されている店舗数は44店舗となりました。

業績につきましては、売上面では家庭用市場が前年実績を上回り、業務用市場は前年並みの実績、原料用市場は販売数量が伸長したものの、コーヒー相場と連動した取引により前年実績を下回る結果となり、全体では減収となりました。一方、利益面では製造コストの改善などにより前年実績を上回り、増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は422億22百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は21億34百万円（同9.4%増）となりました。

（飲食関連事業）

株式会社イタリアントマトでは、春季に「トマトクリームとバジルソースの2種の Pasta」、夏季に「コールドパスタフェア」、秋季にはチーズのような豆乳クリームを使用した「ティラティススイーツ・ドリンクフェア」などのメニューフェアを実施しました。国内では富山市に「カフェジュニア ユウタウン総曲輪（そうがわ）店」、東京駅に「カフェスペリオール サウスタワー店」などを出店、新業態店舗として、世田谷区下北沢に昼は自家製パンを使用したサンドイッチ、夜はアルコールも楽しめる「PANES HOUSE（パーネズハウス）」、同区三軒茶屋には当社の自家焙煎支援システムSRSを導入した「自家焙煎珈琲 蔵味～Kurami～」を出店しました。海外では香港に「フェリ・ブール イオンコーンヒル店」、台湾に「スペリオール 台北統一時代店」など、国内外に9店舗を出店する一方、不採算店の閉鎖を進め、店舗数は261店（直営店60店、F C店201店）となりました。

業績につきましては、株式会社イタリアントマトにおける不採算店の整理などにより、売上面では前年実績を下回り、利益面では売上減少に応じたコスト削減が図れず、前年より営業損失が増加しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における株式会社アマンドを含めた飲食関連事業の売上高は35億82百万円（前年同期比6.4%減）、営業損失は88百万円（前年同期は71百万円の営業損失）となりました。

（その他）

その他事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は27億16百万円（前年同期比11.1%減）、営業利益は2億79百万円（同2.9%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

総資産は前連結会計年度末に比べて33億65百万円増加し、518億13百万円となりました。

流動資産は37億88百万円増加し、296億95百万円となりました。これは現金及び預金（8億円増）、受取手形及び売掛金の増加（13億59百万円増）、有価証券の増加（17億円増）などによるものであります。

固定資産は4億23百万円減少し、221億17百万円となりました。償却が進んだことなどにより、有形固定資産は2億39百万円、無形固定資産は38百万円それぞれ減少しました。投資その他の資産は差入保証金の減少（97百万円減）などにより1億45百万円減少しました。

（負債）

負債は前連結会計年度末に比べて25億98百万円増加し、153億36百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて27億4百万円増加し、127億58百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の増加（22億99百万円増）などによるものであります。

固定負債は1億6百万円減少し、25億77百万円となりました。これは退職給付に係る負債の減少(89百万円減)などによるものであります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて7億67百万円増加し、364億77百万円となりました。これは利益剰余金の増加(8億38百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、現時点において平成28年10月24日に公表致しました業績予想の変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。これによる損益に与える影響額は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,803	6,603
受取手形及び売掛金	10,825	12,185
有価証券	300	2,000
商品及び製品	1,649	1,735
仕掛品	224	218
原材料及び貯蔵品	6,088	6,058
繰延税金資産	311	212
その他	731	703
貸倒引当金	△28	△21
流動資産合計	25,906	29,695
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,447	5,239
機械装置及び運搬具（純額）	2,169	1,967
土地	6,334	6,334
その他（純額）	658	828
有形固定資産合計	14,610	14,370
無形固定資産		
のれん	281	240
その他	292	295
無形固定資産合計	574	536
投資その他の資産		
投資有価証券	5,461	5,423
長期貸付金	106	96
繰延税金資産	38	53
差入保証金	1,485	1,387
その他	481	457
貸倒引当金	△216	△207
投資その他の資産合計	7,356	7,211
固定資産合計	22,540	22,117
資産合計	48,447	51,813

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,153	8,452
短期借入金	47	189
未払金	1,708	1,795
未払法人税等	571	300
賞与引当金	572	321
その他の引当金	2	2
その他	997	1,697
流動負債合計	10,053	12,758
固定負債		
長期借入金	100	212
繰延税金負債	170	238
再評価に係る繰延税金負債	478	478
その他の引当金	2	5
退職給付に係る負債	1,038	948
資産除去債務	311	252
その他	582	440
固定負債合計	2,684	2,577
負債合計	12,737	15,336
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,040	5,040
利益剰余金	28,916	29,754
自己株式	△891	△891
株主資本合計	37,693	38,532
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	860	903
土地再評価差額金	△3,545	△3,545
為替換算調整勘定	△4	△11
退職給付に係る調整累計額	△142	△171
その他の包括利益累計額合計	△2,831	△2,824
非支配株主持分	847	769
純資産合計	35,709	36,477
負債純資産合計	48,447	51,813

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	50,236	48,521
売上原価	37,084	34,809
売上総利益	13,152	13,711
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	945	1,165
荷造運搬費	1,114	1,181
車両費	369	366
貸倒引当金繰入額	20	—
役員報酬	246	241
給料及び賞与	4,345	4,425
賞与引当金繰入額	241	245
退職給付費用	170	130
福利厚生費	724	727
賃借料	896	874
減価償却費	278	274
消耗品費	241	260
研究開発費	165	201
その他	1,734	1,826
販売費及び一般管理費合計	11,494	11,923
営業利益	1,657	1,788
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	169	68
持分法による投資利益	62	59
受取家賃	35	25
その他	42	53
営業外収益合計	317	211
営業外費用		
支払利息	7	6
為替差損	24	9
賃貸借契約解約損	9	—
その他	4	4
営業外費用合計	45	21
経常利益	1,929	1,978

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	88	12
国庫補助金	—	33
受取保険金	18	—
受取補償金	253	—
特別利益合計	359	45
特別損失		
固定資産売却損	3	—
減損損失	184	104
持分変動損失	13	1
投資有価証券売却損	91	—
災害による損失	—	4
特別損失合計	293	111
税金等調整前四半期純利益	1,995	1,912
法人税、住民税及び事業税	740	597
法人税等調整額	57	152
法人税等合計	798	750
四半期純利益	1,197	1,162
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△92	△76
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,290	1,238

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	1,197	1,162
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△105	39
土地再評価差額金	1	—
為替換算調整勘定	△11	△8
退職給付に係る調整額	△89	△29
持分法適用会社に対する持分相当額	2	2
その他の包括利益合計	△203	4
四半期包括利益	993	1,167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,088	1,245
非支配株主に係る四半期包括利益	△94	△78

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,995	1,912
減価償却費	1,003	900
減損損失	184	104
固定資産売却損益(△は益)	3	-
投資有価証券売却損益(△は益)	3	△12
国庫補助金	-	△33
受取保険金	△18	-
受取補償金	△253	-
災害損失	-	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△9	△15
賞与引当金の増減額(△は減少)	△213	△250
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△74	△80
受取利息及び受取配当金	△176	△72
支払利息	7	6
持分法による投資損益(△は益)	△62	△59
持分変動損益(△は益)	13	1
売上債権の増減額(△は増加)	△5,423	△1,361
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,514	△56
未収消費税等の増減額(△は増加)	△201	140
仕入債務の増減額(△は減少)	1,606	2,299
未払金の増減額(△は減少)	331	134
未払消費税等の増減額(△は減少)	△221	413
その他	△32	213
小計	△8,051	4,189
利息及び配当金の受取額	167	63
持分法適用会社からの配当金の受取額	13	17
利息の支払額	△7	△6
保険金の受取額	18	-
補償金の受取額	253	-
災害損失の支払額	-	△4
法人税等の支払額	△343	△899
法人税等の還付額	30	10
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,918	3,371
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	1,000	-
有価証券の取得による支出	△600	△3,000
有価証券の償還による収入	4,800	1,300
投資有価証券の取得による支出	△3	△37
投資有価証券の売却及び償還による収入	814	203
有形固定資産の取得による支出	△791	△782
その他	50	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,269	△2,349

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	188	159
短期借入金の返済による支出	△192	△53
長期借入れによる収入	100	200
長期借入金の返済による支出	△34	△47
自己株式の取得による支出	△877	△0
配当金の支払額	△359	△403
その他	△77	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,252	△209
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15	△13
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,916	800
現金及び現金同等物の期首残高	8,467	5,803
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,550	6,603

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	43,353	3,826	47,179	3,056	50,236	—	50,236
セグメント間の内部売上高 又は振替高	373	21	394	1,377	1,772	△1,772	—
計	43,726	3,847	47,574	4,434	52,009	△1,772	50,236
セグメント利益又は損失 (△)	1,951	△71	1,879	288	2,167	△509	1,657

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5億9百万円には、セグメント間取引消去△20百万円、棚卸資産の調整額△73百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4億16百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	42,222	3,582	45,804	2,716	48,521	—	48,521
セグメント間の内部売上高 又は振替高	357	18	376	1,396	1,772	△1,772	—
計	42,579	3,600	46,180	4,112	50,293	△1,772	48,521
セグメント利益又は損失 (△)	2,134	△88	2,045	279	2,324	△536	1,788

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5億36百万円には、セグメント間取引消去△34百万円、棚卸資産の調整額△70百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4億30百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。